

【会員投稿】

ソロキャンプにはまっています!③

原齒科 原 栄実子

コロナ禍でソロキャンプにはまりだして2年を過ぎました。週末やりくりして近場に出かけています。日常診療から離れて、他業種のソロキャンプ女子の友達もできました。



淡路島マンモス  
湖畔に映る黄色く色づいた木々

淡路島マンモスは、津名一宮ICから近く便利。キャンプサイト以外にコテージもあります。湖畔に映る木々が色づき写真よりもずっと綺麗です。

日中は暖かで、焚き火をして暖まりますが、夜は驚くほど寒くなってきました。就寝時は、地面やテントの幕から冷たい地熱や外気が伝わってきて、冬に外で活動するような装いでないと眠れないこともあります。キャンプで一番怖いのは、眠れずに弱っている身体で次の日、長距離を帰らないといけない場合などだと思います。自然に囲まれリフレッシュしたのに、疲れて翌日の診療に影響がでたら大変です。でも秋冬のキャンプは、早朝の凛とした空気が気持ち良いですよ。防寒をしっかり心がけて挑みましょう。



兵庫県保険医協会明石支部第39回総会記念企画 **市民公開・参加費無料**

# 映画「お終活」上映会

日時 12月11日(日) 14:00~16:30 (開場 13:30)  
会場 子午線ホール (明石駅下車徒歩3分 アスピア明石北館9階)

ミニ講演も有  
「これからどうなる?医療と介護」  
お話:西山クリニック  
西山裕康先生



## お終活

熱春!人生、百年時代の過ごし方

水野 勝  
剛力 彩芽 松下由樹  
藤吉久美子 大島さと子 増子俊文江  
袴田吉彦 佐々木みゆ 小林綾子 蛭雪次朗  
大和田伸也 石丸謙二郎 金田明夫  
西村まさ彦 石橋蓮司  
高畑淳子  
橋爪 功

熟年夫婦の騒動をコミカルに描いたドラマ。結婚50年を迎える大原夫妻。定年退職した夫の真一が家にずっといることで、妻の千賀子は夫在宅ストレス症に陥っていた。趣味仲間にお互いの愚痴を言い合う2人は熟年離婚寸前となっていた。そんな中、娘の亜矢から終活フェアへの参加を勧められた千賀子はフェアに足を運び、前向きに今後のことを考えようとするが、真一は「縁起でもない」と嫌がり、夫婦に新たな危機が生まれてしまう。

©2022「お終活」製作委員会

第39回明石支部総会は、記念企画として、映画「お終活 熱春!人生百年の過ごし方」無料上映会とミニ講演を市民公開で開催します。先生はもちろん、ご家族、スタッフ、患者さんにもご案内ください。新型コロナ感染拡大防止対策を講じます。映画は事前お申込みなしでも参加可能ですが、予約で満席の場合お断りする場合があります。\*お問合せ、お申込み:兵庫県保険医協会明石支部 Tel. (078) 393-1809 事務局 平田・本田 (切り取らずにそのままFAX送信してください)

兵庫県保険医協会明石支部総会・映画上映会参加申込 返信FAX 078-393-1802

|   |       |     |
|---|-------|-----|
| 医療機関名                                   | FAX番号 | ( ) |
| ◆14時~映画「お終活 熱春!人生百年時代の過ごし方」 ( )人参加予定です。 |       |     |
| ◆16時45分~総会議事&懇親会(会費無料。会員のみ) 参加者氏名 ( )   |       |     |

※総会議事&懇親会の会場は、参加予定を頂いた先生に個別にご案内します。

兵庫県  
保険医協会

明石支部  
ニュース



No. 327  
2022・11・25  
投稿歓迎!

兵庫県保険医協会 明石支部  
支部長 吉岡 巖  
神戸市中央区海岸通一丁目二番三十一号  
神戸フコク生命海岸通ビル五階

TEL 078-393-1801

## オンライン資格確認のシステム導入義務化と 健康保険証の原則廃止の撤回を求める医師・歯科医師要請署名 医師・歯科医師署名に切実な声

政府が、医療機関・薬局に対し来年2023年4月からオンライン資格確認の原則義務化、2024年秋には保険証の廃止を表明したことに對して、協会が撤回を求めて行っている医師・歯科医師署名には、FAXとオンラインで医師・歯科医師から約700筆の署名が寄せられている。

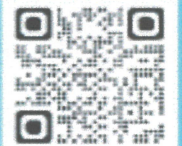
「私の一言」欄には、撤回を求める会員の声がびっしりと書き込まれている。明石支部の会員から寄せられた声の一部を紹介する。

- ◆「協会ご指摘の通り、従来通り保険証は交付した上でマイナンバーカードの利用は任意とするべきだと思います」(医師) ◆「オンライン資格確認のシステム導入の義務化反対！」(医師) ◆「十分時間をかけて準備すべきです。マイナンバーカードの利用者増のために医療機関を利用しないこと」(医師) ◆「もうすぐ閉院予定です。機械導入反対です」(医師) ◆「小児科医です。乳児カードは顔写真不要ということですが、幼児でも機器を使った顔認証は難しいと思います。暗証番号も自分では押せません。これまで通りの保険証の確認が一番簡単で便利です。現場の声を見殺しした制度の押し付けは止めてください」(医師) ◆「一人で寝たきり生活をしている人はカードを預からずどうやって登録するのか。これまで通りの保険証確認で十分だ」(歯科医師) ◆「今まで通りの保険証交付でお願いしたいです。そんなに不自由を感じておりません。よろしくをお願いします」(歯科医師) ◆「第三者機関への委託で患者情報が漏えいした際の取り決めがないので法的整備が先なのは？」(歯科医師) ◆「導入コストだけでなく、ランニングコストもきちんと国がカバーすべきだと考えます」(医師) ◆「会員の70%以上が反対する政策が実行される事は”悪しき前例”となるので、ぜひ阻止しなければならない」(医師)

～署名についてまだこれからの先生は、下記QRコードを携帯電話等で読み取ってぜひご協力下さい！

**オンライン署名は右のQRコードから！→**

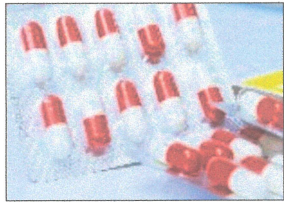
右のQRコードから署名サイトにアクセスし、必要事項をご記入ください。入力は1分以内に終わります。



### 支部研究会「医薬品の供給不足と現場での対応について」

「医薬品の供給不足と現場での対応について」をテーマに、8月20日WEB併用で支部研究会を開催した。ふたば薬局薬局長・管理薬剤師の丹羽なおみ氏が、2020年12月に発覚した「小林化工」の不祥事を発端に、その後も大手の日医工などジェネリックメーカーの業務停止命令が相次ぎ、需給バランスが崩れ、出荷制限が先発品メーカーまで影響し、全国でかつてない規模の医薬品の供給不足の状態が続いた経緯を説明。

医薬品の原薬の6割を海外からの輸入に依存している日本は、コロナ禍の影響を大きく受け入手困難となり出荷調整、品薄状態がさらに加速したこと。特に、エルデカルシトールはその代替品も供給停止。他にも抗てんかん薬のデパケンやテグレトール、抗血小板剤、抗アレルギー剤など多くの薬剤が入手困難となり、薬局相互の助け合いと情報収集、医師へ処方期間の変更などの



お願いなど、日常的な様々な人間関係に支えられなんとか対応。ジェネリック医薬品への信頼が失われる事態に對し、処方変更に對しての患者さんの不安を取り除き了解を得られるよう詳しく丁寧な言葉かけを心がけていることなど、現場での具体的な対応についても述べた。

最後に、まだまだ続いている異常な医薬品の供給不足は、ジェネリックメーカーの責任だけでなく、国の医療費削減施策による後発品の利用促進、薬価の引き下げ傾向も追い打ちをかけたのではないかと。現場の対応だけでは限界がある。国と医療業界が力を合わせて信頼を回復し、安心安全な医薬品を必要とする患者さんに届けられる当たり前のために頑張りたいと力説した。

討論では、「国や学会、メーカーなどがもっと責任を持って国民にわかりやすく医薬品の供給についての現状をテレビコマーシャルなどを通じて知らせるべき」「現場に對応を押し付けるだけでは、後発品への信頼回復は程遠い」などの意見が寄せられた。